

発達スクリーニング検査法の作成

研究第7部 高橋種昭・萩原英敏
研究第5部 望月武子
研究第3部 加藤忠明
共同研究者 高野陽(国立公衆衛生院)
野田幸江(立正短期大学)
野田雅子

I 作成の目的

現在、乳幼児健康診査が全国でさかに行われるようになり、多大の効果を障害児の早期発見や健康指導などにあげている。そうした健康診査の場では、児童の心身の発達状況を正しく把握し、適切な措置をこうじることが常に厳しく要請され、種々の方策が策定され、実施されている。中でもその中心をなすものが発達スクリーニングである。しかしまだ成長の途上にある乳幼児期の児童の心身の発達の評価ということは、決して容易なことではない。ましてスクリーニングという段階では、決して長時間かけての観察や検査が許されるわけではなく、短時間で、簡便な方法で、そのものが行えることが前提となるので、ますますその困難度は増すわけである。

このように、児童の発達スクリーニングという仕事は、極めて難しい条件の下に行われるものである。そして、その使命を考える時、スクリーニングの方法については常に厳しい信頼性や妥当性についてのチェックが必要である。何故なら、対象となる児童の側にとって、あるいはその児童の養育者にとって、スクリーニングをされるということは深刻な問題であり、時には非常に不幸をもたらすことになることも全くないとは言えないからである。そのため、健診におけるスクリーニングさえ差別につながるものとして排除が要求されたりするわけである。たしかに、その方法を誤れば、そうしたことも当然考えられ、スクリーニングという仕事は、そうした多くの人の危惧の念を打破り、スクリーニング本来の目的である、その児童児童に応じた、適切な、きめ細い指導が行われるために必要な作業であり、資料を得る方法であることを万人に認めてもらえるに足るものでなければなら

ない。

今回の研究の目的も、そうしたスクリーニング法の確立をめざしたものであり、乳幼児健康診査が行われている生後3ヶ月から5歳までの児童の心身の発達スクリーニングについて考案し、モデル案を七つの発達段階について示したものである。

II 作成の経過

1. 発達評価の方法

われわれは発達というものの評価はあくまでも多角的、総合的に行われねばならぬものであることを前提として、今回のスクリーニング法の策定にあたった。従って、今回の研究においても、一つだけの検査や観察などによって評価を行うのではなく、健診票に記載されている本人の生育史や既往症、養育環境条件などと、アンケートや観察の結果とを総合させて評価を行うことにした。つまり、発達の評価は、健診票、アンケート、観察の内容なり、結果から総合的に行われるわけである。

イ 健診票について(表1参照)

健診票については、既に厚生省からの通達により、その基本的なものについては示されているが、われわれが今回の研究にあたって考案したものは、愛育母子保健センターの保健指導部で用いているものを一部手直したものである。いずれにしても、健診票の内容は、発達に問題がある場合は極めて重要な意味をもつものであり、勝手な省略は許されないものである。特に妊娠中から出産までの経過やその後の発育状況についての記事は、正確で、できる限り詳細なものが望まれる。(但し、母子手帖などと重複するものについては敢えて記載の必要はない。)

表1. 健診表

児童名		男・女	生年月日 昭和 年 月 日生	年齢 歳 カ月
保護者名と職業 父 職業 母 職業			住所 TEL () -	
同居家族				
間柄	年齢	健康状態		生活面その他の特記事項
父	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
母	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
同胞	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
同胞	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
同胞	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
同胞	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
同胞	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
祖父	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
祖母	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
その他 ()	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
その他 ()	歳	1. 異常なし 2. 異常あり ()		
主な養育者 昼間 () , 夜間 ()			集団生活経験 1. 保育所 2. 幼稚園 3. その他 () 4. 無し	
計測				
身長	cm	体重	kg	カーブ指数
(乳児のみ)	頭囲 cm	胸囲	cm	
(幼児のみ)	尿蛋白 - ± +	尿糖	- ± +	
計測者名 ()				
身体所見				
栄養状態	1. 良い 2. 悪い	人工, 母乳, 混合, 離乳時期		ヶ月
形態異常	1. 異常なし 2. あり ()			
皮膚	1. 異常なし 2. " (湿疹, 汗疹, 不潔, 血管, その他)	()		
胸部	1. 異常なし 2. " ()	()		
心音	1. 異常なし 2. " ()	()		
腹部	1. 異常なし 2. " ()	()		
神経学的所見	1. 異常なし 2. " ()	()		
視覚	視力 1. 異常なし 2. 異常あり 3. 疑 斜視 1. あり 2. なし			
聴覚	1. 異常なし 2. 難聴 3. 疑			
歯	生歯 本	う歯 本	未処理	本
その他の疾病異常	1. 特になし 2. あり ()	()		
診察者名 ()				
健康面の問診 (初回時のみ)				
① 出生体重	g			
② 在胎期間	週			

高橋他：発達スクリーニング検査法の作成

- ③ 妊娠中に、何か病気にかかった事がありましたか
 1. なし 2. あり (具体的に:)
- ④ 妊娠中に、飲酒や喫煙をしましたか
 飲 酒 1. いいえ 2. はい
 喫 煙 1. いいえ 2. はい
- ⑤ 妊娠中に強いストレスを、感じる事がありましたか
 1. なし 2. あり
- ⑥ 出産時に、何か異常がありましたか
 1. なし 2. あり (具体的に:)
- ⑦ お母さん自身の HB 抗原は
 - +
 +の場合の抗原は
 - +
 +の場合、児に対する感染予防の処置は済みましたか
 1. はい 2. いいえ
- ⑧ 新生児期に、何か異常がありましたか
 1. なし 2. あり (長期入院、人工呼吸器使用、重症仮死、重症黄疸、けいれん、その他)
- ⑨ 新生児の、先天代謝異常スクリーニングは済みましたか
 1. 済んだ 2. 未 3. わからない
- ⑩ 神経芽細胞スクリーニングは済みましたか
 1. 済んだ 2. 未 3. わからない

《全期にわたって》

- ⑪ 家庭での育児に対する、主な協力者や相談相手は、大体決っていますか
 1. いいえ 2. はい (それは誰ですか:)
- ⑫ 生活で、何か困っている事はありますか
 1. いいえ 2. はい (それはどんな事ですか:)
- ⑬ 子どもが、親を極端に困らせる事は、ありますか
 1. いいえ 2. はい (それはどんな事ですか:)
- ⑭ その他相談したい事 ()
- ⑮ 前回健診以後、病院に入院した事が、ありますか
 1. なし 2. あり (具体的に: 時期:)
- ⑯ 前回健診以後、医療を要する事故にあったことがありますか
 1. なし 2. あり (具体的に: 時期:)
- ⑰ 慢性的な病気がありますか
 1. なし 2. あり (湿疹、喘息、けいれん、その他)
- ⑱ 次の予防接種は、済みましたか

B C D	1. 1回済	2. 未	
ポリオ	1. 1回済	2. 2回済	3. 未
三種混合	1. 第1期済	2. 第2期済	3. 未
麻疹	1. 1回済	2. 未	
- ⑲ 現在の発育、発達についてどう思いますか

身体発達	1. 良いと思う	2. 悪いと思う	3. わからない
運動機能発達	1. 良いと思う	2. 悪いと思う	3. わからない
精神発達	1. 良いと思う	2. 悪いと思う	3. わからない

⑳ 特記事項

()

表2 3・4カ月児

アンケート項目	評価 丸で囲んだ 答を、望ま しい発達と 考える	問題の領域					原因							
		① 運 動 能 力	② 認 知 ・ 知 的 能 力	③ 対 人 関 係	④ 情 緒 ・ 人 格	⑤ 身 辺 の 自 立	① 身 体 疾 患	② 知 能 遅 滞	③ 脳 の 器 質 的 障 害	④ 感 覚 器 官 の 障 害	⑤ 自 閉 的 傾 向	⑥ 情 緒 障 害	⑦ 養 育 状 態	⑧ 環 境 的 要 因
1. 直立させたら、頭がぐらぐらしますか	はい・ <u>いいえ</u>	○					○	○	○					
2. 動かさない手足がありますか	はい・ <u>いいえ</u>	○					○	○	○					
3. 目で親を追う事がありますか	<u>はい</u> ・いいえ		○	○			○	○	○	○			○	
4. 音が聞えたり、こちらから話しかけたりすると、反応しますか	<u>はい</u> ・いいえ		○	○			○	○	○	○			○	
5. お母さんや、日頃世話している人に、まったく無関心ですか	はい・ <u>いいえ</u>		○	○	○		○			○			○	
6. あやすと、笑いますか	<u>はい</u> ・いいえ		○	○	○		○			○	○	○	○	
7. 表情が乏しく、色々な事に反応しませんか	はい・ <u>いいえ</u>		○		○		○			○	○	○	○	
8. ちょっとした音などをきいたり、体の位置の変化などで、激しく泣きますか	はい・ <u>いいえ</u>				○							○	○	
9. 昼・夜の区別が、大体ついていますか	<u>はい</u> ・いいえ					○							○	
10. 授乳の時刻は、大体決っていますか	<u>はい</u> ・いいえ					○							○	
観 察 項 目 I	問題の有無													
1. 親の側の働きかけが、適当かどうかをみる	あり・なし			○	○									○
2. 児の側が、よく反応しているかどうかをみる	あり・なし		○	○			○	○		○			○	
観 察 項 目 II	問題の有無													
1. 腹臥位で、頭を持ち上げるかどうかをみる	あり・なし	○					○	○	○					
2. 仰臥位で、両手を持って、引き起こした時、頭がついてくるかどうかをみる	あり・なし	○					○	○	○					
3. 筋緊張がみられるかどうかをみる	あり・なし	○					○	○	○					
4. 裸にした時の姿勢や運動に、問題点がないかどうかをみる	あり・なし	○					○		○					
5. なん語、てい泣、微笑、注視といった児の行動が周りの人の対応によって、変るかどうかをみる	あり・なし		○	○	○		○		○	○			○	

高橋他：発達スクリーニング検査法の作成

表3 6・7カ月児

アンケート項目	評価 丸で囲んだ 答を、望ま しい発達と 考える	問題の領域					原因								
		① 運動 能力	② 認知・ 知的 能力	③ 対人 関係	④ 情緒・ 人格	⑤ 身辺 の自 立	① 身体 疾患	② 知能 遅滞	③ 脳の 器質 的障 害	④ 感覚 器官 の障 害	⑤ 自閉 的傾 向	⑥ 情緒 障害	⑦ 養育 状態	⑧ 環境 的要 因	
1. 寝返りが、できますか	はい・いいえ	○					○	○	○					○	
2. 玩具に手を出しますか	はい・いいえ	○	○					○	○	○				○	
3. 持っているものを、口に持っていったり しますか	はい・いいえ	○	○					○	○					○	
4. 声の方に、振り向きますか	はい・いいえ		○	○						○	○			○	
5. 話す様な調子で、抑揚をつけて、声を出 しますか	はい・いいえ		○	○				○	○					○	
6. 家族の人から話しかけられたり、相手に してもらおうと、喜びますか	はい・いいえ			○	○			○	○		○			○	
7. あやしても、笑いませんか	はい・いいえ		○	○	○			○	○		○	○		○	
8. 好きな玩具を手にとると、熱中して遊び ますか	はい・いいえ		○					○	○					○	
9. ぐずったり泣いたりする事が、非常に多 いですか	はい・いいえ				○			○						○	○
10. ごく小さな音にも、目ざめやすく、眠り が浅いですか	はい・いいえ				○									○	○
11. 夜・昼間の寝る時間は、大体一定してい ますか	はい・いいえ					○									○
12. 夜泣きが激しいですか	はい・いいえ				○									○	○
観 察 項 目 I	問題の有無														
1. 寝返りが、出来るかどうかをみる	あり・なし	○						○	○	○					○
2. 支えなしで、座れるかどうかをみる	あり・なし	○						○	○	○				○	
3. 親子の交流に、問題点はないかどうかを みる	あり・なし			○	○			○	○		○	○	○	○	
4. 子どもの表情が、いきいきしているかど うかをみる	あり・なし				○			○	○		○	○	○	○	
観 察 項 目 II	問題の有無														
1. 手をさしのべ、積み木を取るかどうかを みる	あり・なし	○	○						○	○					
2. 背後の音に、振り向くかどうかをみる	あり・なし		○							○	○				
3. 課題に対する反応があるかどうかをみる	あり・なし		○	○					○	○	○			○	

表4 9・10カ月児

アンケート項目	評価 丸で囲んだ 答を、望ま しい発達と 考える	問題の領域					原因							
		① 運 動 能 力	② 認 知 ・ 知 的 能 力	③ 対 人 関 係	④ 情 緒 ・ 人 格	⑤ 身 辺 の 自 立	① 身 体 疾 患	② 知 能 遅 滞	③ 脳 の 器 質 的 障 害	④ 感 覚 器 官 の 障 害	⑤ 自 閉 的 傾 向	⑥ 情 緒 障 害	⑦ 養 育 状 態	⑧ 環 境 的 要 因
1. 何かにつかまって、立っていられますか	はい・いいえ	○					○	○	○					
2. ハイハイできますか	はい・いいえ	○					○	○	○					○
3. 2つの積み木を、たたきあわせめますか	はい・いいえ	○	○					○	○					
4. ビーズなど小さなものを、親指と人指し指でつまみますか	はい・いいえ	○	○					○	○					
5. テレビのコマーシャルやテーマ音楽が変わった時、ぱっと向いたりしますか	はい・いいえ		○					○						
6. 引き出しをだしたり、中のものをいじったりして遊びますか	はい・いいえ	○	○					○	○					
7. 大人の簡単な身振りをまねますか	はい・いいえ		○	○				○			○		○	
8. イナイ、イナイ、バーをやると喜びますか	はい・いいえ		○	○				○			○		○	
9. 人見知りや、後追いをしますか	はい・いいえ			○	○			○			○		○	
10. 好きな玩具を手にとると、熱中して遊びますか	はい・いいえ		○					○					○	
11. 夜泣きが、激しいですか	はい・ <u>いいえ</u>				○			○					○	
12. 寝つきが、極端に悪いですか	はい・ <u>いいえ</u>				○	○		○					○	
13. 夜間を中心とした睡眠のリズムが、確立していますか	はい・ <u>いいえ</u>				○	○		○					○	
観 察 項 目 I	問題の有無													
1. ハイハイが出来るかどうかをみる	あり・なし	○						○	○	○				○
2. 親子の交流に、問題点はないかどうかをみる	あり・なし			○	○				○			○	○	○
3. 親しい人と、見知らぬ人を、区別するかどうかをみる	あり・なし			○	○				○			○		○
4. 子どもの表情がいきいきしているかどうかをみる	あり・なし				○			○	○			○	○	○
観 察 項 目 II	問題の有無													
1. 模倣して、積み木を握り、コップの中に入れるかどうかをみる	あり・なし	○	○	○					○	○				
2. 背後から名前を呼ばれ振向くかどうかをみる	あり・なし		○	○					○		○	○		○
3. 布で覆われた積み木を見つけだすかどうかをみる	あり・なし		○						○					
4. 課題に対する反応があるかどうかをみる	あり・なし	○	○						○		○	○		○

表5 1 歳児

アンケート項目	評価	問題の領域					原因							
		① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因
丸で囲んだ 答を、望ま しい発達と 考える														
1. 1人で立っていられますか	はい いいえ	○					○	○	○					
2. 伝い歩きをしますか	はい いいえ	○					○	○	○					
3. 目つきや、目の動きがおかしいですか	はい いいえ		○				○	○		○				
4. 絵本のページを、人指し指と親指でめくりますか	はい いいえ	○	○				○	○					○	
5. ビンのふたを開けたり閉めたり、またティッシュを出したりするのが、好きですか	はい いいえ	○	○				○	○					○	
6. チョウダイ、オイデなどの言葉を理解しますか	はい いいえ		○	○			○		○	○			○	
7. 子供が遊んでいるのを、興味をもって見ていますか	はい いいえ			○			○			○			○	○
8. 名前を呼ぶと、振り向きませんか	はい いいえ		○	○			○		○	○			○	
9. 大人のする事を、まねますか	はい いいえ		○	○	○		○		○	○			○	
10. 身近にあるものを、おもちゃにして、熱中して遊びますか	はい いいえ				○		○						○	
11. コップで水が飲めますか	はい いいえ	○					○		○				○	
12. 夜泣きが、激しいですか	はい いいえ						○	○					○	
13. 寝つきが、極端に悪いですか	はい いいえ						○	○					○	
観察項目 I	問題の有無													
1. 伝い歩きが出来るかどうかをみる	あり・なし	○					○	○	○				○	
2. 親子の交流に問題点はないかどうかをみる	あり・なし			○	○			○				○	○	
3. 他の子に興味があるかどうかをみる	あり・なし			○				○			○	○	○	○
4. 子どもの表情が、いきいきしているかどうかをみる	あり・なし				○			○					○	
観察項目 II	問題の有無													
1. 模倣して、両手で積み木を、たたきあわせるかどうかをみる	あり・なし	○	○					○	○			○		○
2. 模倣して、本をめくるかどうかをみる	あり・なし	○	○					○	○			○		○
3. 模倣して、メチャメチャ書きをするかどうかをみる	あり・なし	○	○					○	○			○		○
4. 課題に対する反応があるか	あり・なし		○	○				○		○	○		○	

表6 1歳6カ月児

アンケート項目	評価 丸で囲んだ 答を、望ま しい発達と 考える	問題の領域								原因							
		① 運 動 能 力	② 認 知・ 知 的 能 力	③ 対 人 関 係	④ 情 緒 ・ 人 格	⑤ 身 辺 の 自 立	① 身 体 疾 患	② 知 能 遅 滞	③ 脳 の 器 質 的 障 害	④ 感 覚 器 官 の 障 害	⑤ 自 閉 的 傾 向	⑥ 情 緒 障 害	⑦ 養 育 状 態	⑧ 環 境 的 要 因			
1. 1人歩きが上手にでき、ほとんど転ばないですか	はい・いいえ	○					○	○	○	○							
2. ボールを転がして、大人と遊びますか	はい・いいえ	○		○				○	○		○				○	○	
3. 積み木を3個、重ねる事ができますか	はい・いいえ	○	○					○	○								
4. 電話や玄関のベルなどが聞いたら、見に行ったり、教えたりしますか	はい・いいえ		○	○				○		○	○						
5. 意味のある単語を、2～3語話しますか	はい・いいえ		○	○						○	○				○		
6. 音楽のリズムに合わせて、身体を動かしますか	はい・いいえ	○	○					○	○	○							○
7. 大人の反応を見ながらいたずらをしますか	はい・いいえ			○							○				○		
8. 他の子どもの遊びをみて、よろこんだり行きたがったりしますか	はい・いいえ		○	○					○		○				○	○	○
9. 思うようにならないとカンシャクを起こしますか	はい・いいえ				○									○	○	○	
10. 初めての場所、人、物などに、極端な恐れや不安を示しますか	はい・いいえ				○									○	○	○	
11. 食事の際、スプーンを使おうとしますか	はい・いいえ	○					○	○	○	○						○	
12. 寝つきが極端に悪いですか	はい・いいえ						○	○	○								○
13. 夜泣きが、激しいですか	はい・いいえ				○		○	○	○							○	○
観 察 項 目 I	問題の有無																
1. 1人歩きができるかどうかをみる	あり・なし	○						○	○	○							
2. 遊んでいる他の子どものところに、行きたがるかどうかをみる	あり・なし			○					○		○				○	○	○
3. 子どもの表情がいきいきしているかどうかをみる	あり・なし				○			○	○		○	○			○		
観 察 項 目 II	問題の有無																
1. 積み木を3個、重ねられるかどうかをみる	あり・なし	○	○						○	○							
2. 簡単な命令や要求に、応じられるかどうかをみる	あり・なし		○	○					○		○	○			○		
3. 「お目」「お鼻」「お口」など、顔の部位を指でさせるかどうかをみる	あり・なし		○						○		○			○			
4. 課題に対する反応があるかどうかをみる	あり・なし		○	○					○		○	○			○		

表7 3 歳 児

ア ン ケ ー ト 項 目	評 価 丸で囲んだ 答を、望ま しい発達と 考える	問 題 の 領 域					原 因							
		① 運 動 能 力	② 認 知 ・ 知 的 能 力	③ 対 人 関 係	④ 情 緒 ・ 人 格	⑤ 身 辺 の 自 立	① 身 体 疾 患	② 知 能 遅 滞	③ 脳 の 器 質 的 障 害	④ 感 覚 器 官 の 障 害	⑤ 自 閉 的 傾 向	⑥ 情 緒 障 害	⑦ 養 育 状 態	⑧ 環 境 的 要 因
1. ボールを、上から投げますか	はい いいえ	○					○						○	○
2. 階段を1段ごとに、両足をそろえて降りられますか	はい いいえ	○					○						○	○
3. 丸が書けますか	はい いいえ	○	○				○	○	○				○	○
4. 「これは何」「どうして」など、さかんに質問しますか	はい いいえ		○	○			○			○			○	○
5. ゴッコ遊びの中などで、何かの役をして遊んでいますか	はい いいえ		○	○	○		○			○			○	○
6. 友達遊びをいやがり、1人で遊んでばかりいますか	はい いいえ			○	○		○			○			○	○
7. 自分の物と、他人の物を区別しますか	はい いいえ		○	○			○			○			○	○
8. ほしい物があっても、言い聞かせれば少しの間は我慢しますか	はい いいえ				○		○			○			○	○
9. 意欲的に、遊びますか	はい いいえ				○		○			○			○	○
10. 自分でやるという主張が、多いですか	はい いいえ				○	○	○			○			○	○
11. ちょっとした事を、極端にこわがり、おびえる事がありますか	はい いいえ				○	○	○			○			○	○
12. 極端に落ち着きがないですか	はい いいえ				○		○	○		○			○	○
13. 箸を使おうとしますか	はい いいえ	○					○	○	○				○	○
14. 歯をみがきますか	はい いいえ						○	○	○				○	○
15. 1人で、おしっこができますか	はい いいえ	○					○	○	○				○	○
観 察 項 目 I	問題の有無													
1. 子どもの表情が、いきいきしているかどうかをみる	あり・なし				○		○	○			○	○	○	
2. 子どもの動きが、多動かどうかをみる	あり・なし				○		○	○			○	○	○	
3. 何か癖がないかどうかをみる	あり・なし				○						○	○	○	
4. 他の子と、交友関係が出来るかどうかをみる	あり・なし		○	○				○			○		○	○
観 察 項 目 II	問題の有無													
1. 丸の模写が、出来るかどうかをみる	あり・なし	○	○					○	○					○
2. 名前が、姓名とも言えるかどうかをみる	あり・なし		○					○		○				
3. 丸の大小が、わかるかどうかをみる	あり・なし		○					○						
4. 課題意識が、あるかどうかをみる	あり・なし		○	○				○		○	○		○	

表8 5歳児

アンケート項目	評価 丸で囲んだ 答を、望ま しい発達と 考える	問題の領域								原因							
		① 運 動 能 力	② 認 知・ 知 的 能 力	③ 対 人 関 係	④ 情 緒・ 人 格	⑤ 身 辺 の 自 立	① 身 体 疾 患	② 知 能 遅 滞	③ 脳 の 器 質 的 障 害	④ 感 覚 器 官 の 障 害	⑤ 自 閉 的 傾 向	⑥ 情 緒 障 害	⑦ 養 育 状 態	⑧ 環 境 的 要 因			
1. スキップが、出来ますか	はい・いいえ	○					○	○	○					○			
2. ブランコに、1人で乗ってこげますか	はい・いいえ	○					○		○					○	○		
3. ハサミを使って、形を切りぬけますか	はい・いいえ	○	○					○	○					○			
4. 四角が、書けますか	はい・いいえ	○	○					○	○					○			
5. 大体、発音を、誤りなく話せますか	はい・いいえ		○					○		○				○			
6. 童話を読んでやると、大体筋がわかりま すか	はい・いいえ		○					○						○			
7. いくつかの文字や数字を、読んだり書い たりしますか	はい・いいえ		○					○						○			
8. 約束やルールが、守れますか	はい・いいえ		○	○	○			○			○			○			
9. 集団生活になじんでいますか	はい・いいえ			○	○			○			○			○	○		
10. 友達に対して、極端な乱暴をしますか	はい・いいえ			○	○						○			○	○		
11. 気になる行動や、目立った癖などが、あ りますか	はい・いいえ			○	○						○			○	○		
12. 食事は自分で食べられますか	はい・いいえ	○					○	○						○			
13. 1人で、大小便が出来ますか	はい・いいえ	○					○	○	○					○	○		
14. 1人で、衣服の着脱が出来ますか	はい・いいえ	○					○	○	○					○	○		
観 察 項 目 I	問題の有無																
1. 子どもの表情がいきいきしているかどう かをみる	あり・なし				○		○	○			○	○		○			
2. 子どもの動きが多動かどうかをみる	あり・なし				○		○	○			○	○		○			
3. 何か癖がないかどうかをみる	あり・なし				○						○	○		○			
4. 他の子と、交友関係が出来るかどうかを みる	あり・なし			○				○			○	○		○	○		
観 察 項 目 II	問題の有無																
1. 模倣して、片足ケンケンが出来るかどう かをみる	あり・なし	○					○	○	○					○			
2. 四角の模写が、出来るかどうかをみる	あり・なし	○	○					○	○					○			
3. 13個の積み木が、数えられるかどうかを みる	あり・なし		○					○						○			
4. 「出かける時、雨が降ったらどうする」と か「他人の物を壊した時どうする」など の質問に、答えられるかどうかをみる	あり・なし		○					○						○			
5. 課題意識が、あるかどうかをみる	あり・なし		○	○				○		○	○			○			

表9 3・4カ月児

自然観察項目	観察点	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因							
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因
1. 親の側の働きかけが、適当かどうかをみる	親の側が、まなざし、さわり方、話し方などを通して愛情を子どもに伝えているかをみる	子どもに、愛情ある働きかけがある (○) 子どもに愛情ある働きかけがない (×)			○	○								○	
2. 児の側が、よく反応しているかどうかをみる	児の側が、微笑したり、声を出したり、また、親がいなくなると泣いたりといった、親との接触を、求めているかどうかをみる	親との接触を求める反応がみられる (○) 親との接触を求める反応がみられない (×)		○	○			○	○			○		○	

ロ. アンケートについて

今回、われわれが考案したアンケートは、3・4ヶ月児、6・7ヶ月児、9・10ヶ月児、1歳児、1歳6ヶ月児、3歳児、5歳児の7種類のものである。(表2～8参照)

アンケートは、当然、母親か、それに代る主たる養育者によって記入される。回答は「はい」「いいえ」のどちらかに答えるようになっており、評価は資料に示す如く○で囲んだ答が望ましいものである。

アンケートの項目については、その選定を文献や資料を参考にして、まず研究員全員の話し合いの中で行い、選ばれた項目を東京都内の2ヶ所の病院で生れた乳幼児1377名について実際にアンケートを実施し、通過率85%以上のものだけを選んだ。

質問項目の右側の上欄に、「問題の領域」とあって①から⑤までの数字の下に記されているものは、問題の項目の領域を示すものである。例えば、3・4ヶ月児の段階のアンケートの中にある「あやすと笑いますか」という項目の場合、その間に「はい」と答えがあり、問題の存在が認められた時、その右側の領域の認知、知的能力

と対人関係、情緒・人格の3ヶ所に○印が付せられており、その問題が以上の3つの領域に関係をもつものであることを示している。そして、更にその右側に原因とあり、①から⑧までの数字の下に記されているものは、アンケート項目の問題の原因として考えられるものである。前記の3・4ヶ月児の「あやすと笑いますか」の項目の場合、原因としては②の知能遅滞、⑤の自閉的傾向、⑥の情緒障害、⑦の養育状態の4つのものが考えられるわけである。つまり、そのようにして問題の所在をアンケートで確認し、その領域と原因として考えられるものを明らかにするように今回のわれわれの考案したアンケートはできているわけである。なお原因の中で⑦の養育状態と⑧の環境的要因については、やや似かよったものであるが、⑦の養育状態は、親の養育態度を中心にしたいわば家庭の人的環境についてのものであり、⑧の環境的要因とは、その他の子どもを取巻く住居環境・地域社会環境や友人関係などである。

ハ. 観察について(表2～22参照)

観察については、今回のスクリーニング法では、問診や計測、診察などの場を利用しての自然観察(無条件観

表 10. 6・7ヶ月児

自然観察項目	観察点	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因								
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因	
1. 寝返りが、出来るかどうかをみる	上肢・下肢をうまく使って、仰臥位から腹臥位に、うまく回転出来るかどうかをみる	仰臥位から腹臥位に回転出来る (○) 仰臥位から腹臥位に回転出来ない (×)	○					○	○	○					○	
2. 支えなしで座れるかどうかをみる	支えなしでも、少しの間ならば、自分で平均をとったり、手で支えたりして座れるかどうかをみる	少しの間でも座れる (○) 少しの間でも座れない (×)	○						○	○	○					○
3. 親子の交流に問題点はないかどうかをみる	子どもの視線が親の視線に合うかどうかをみる	視線が合い、問題点はない (○) 視線が合わず、問題点がある(×)			○	○				○	○	○	○	○	○	
4. 子どもの表情がいきいきしているかどうかをみる	機嫌の良い時でも悪い時でも、子どもの気持ちが、表にいきいきと出ているかどうかをみる	いきいきしている (○) いきいきしていない (×)				○			○	○			○	○	○	

察)Iと、ある課題を与えての場面を設定した場面設定観察(条件観察)IIの2種類のを考えた。観察者は医師、保健婦、心理相談員などがあたればよく、できるだけ臨床経験豊富なものが担当することが望まれる。

観察項目については、アンケートの場合と同じく、研究員全員で討議を行い、適当な項目を選び、実際に健康診査の仕事に従事している医師や保健婦にその妥当性と実用性について検討してもらい、90%以上のものがよしとするものを最終的に選んだ。

観察項目と問題領域との関連も、そしてその原因につ

いても、アンケートの場合と全て同じである。

この観察は、可能ならば全ての対象児童に行ってもらいたいものであるが、いろいろな制約があり、実施が困難な場合が多いと考えられるので、自由観察については、問診や計測などの機会を使って全ての児童について行い、場面設定観察については、上欄の右側の枠内にアンケート項目で問題があった場合、その家族が望まれるものを次のように記しておいたので、そのものはぜひ観察を行って欲しいものである。

「アンケート項目の問題領域①→場面設定項目1をA①

表 11. 9・10カ月児

自然観察項目	観察点	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因									
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因		
1. ハイハイが出来るかどうかをみる	腹臥位になると手を膝を開いて体を支え、這うかどうかをみる	手と膝を開いて這う (○) 這わない (×)	○					○	○	○						○	
2. 親子の交流に問題点はないかどうかをみる	子どもの視線が親の視線に合うかどうかをみる	視線が合い、問題点はない (○) 視線が合わず、問題点がある (×)			○	○				○					○	○	○
3. 親しい人と見知らぬ人を区別するかどうかをみる	見知らぬ人に対しては、はにかんだり、泣いたりといった人見知りがあるかどうかを見る	人見知りがある (○) 人見知りがない (×)			○	○				○					○		○
4. 子どもの表情が、いきいきしているかどうかをみる	機嫌の良い時でも悪い時でも、子どもの気持が、表にいきいきと、出ているかどうかをみる	いきいきしている (○) いきいきしていない (×)				○		○	○						○	○	○

→場1というように略して記した。つまり、ア①の①は問題領域の①のことであり、場1とは場面設定観察項目1のことである。」

児童の行動観察は、まだ課題意識もない乳幼児の場合、その発達を知る上での重要な方法である。しかし、その観察はあくまでも客観的に行われねばならず、観察のポイントを正しくしぼり、その行動を正しく把握することが必要である。

二. 総合評価について

児童の心身の発達の評価は、前述した如くあくまでも総合的に行うことが必要である。しかし、このことは正に言うは易く行うは難し、であり、いろいろな問題や要因をダイナミックに関連させながら、全人的に児童をと

らえ評価を行うことは決して容易な業ではない。

今回のわれわれの研究においては、まずアンケートによって問題の所在を明らかにし、観察で確認し、更に健診票や問診などで得られた資料を基に、総合的にその評価を健診チームによって行うことを考えたわけである。

従って、数字的なものにこだわらず、一項目毎にその意味を検討し、問題を明かにし、適切な事後措置と結びつけることができればよいわけである。従って、慎重で、詳細な資料に基づく総合的な評価は、スクリーニングの場合でも当然必要であるが、決してこの段階で断定的な診断なり、評価を行うことがあってはならない。少しでも疑問のある場合はぜひ精密検査を実施するなり、専門機関を紹介するなりして、正しい評価なり、診断を得る

表 12. 1 歳児

自然観察項目	観察点	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因									
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因		
1. 伝い歩きが出来るかどうかをみる	支えにつかまらせて立った状態で、自分から目的に向かって伝い歩きをするかどうかをみる	伝い歩きをする (○) 支えにつかまって歩かない (×)	○							○	○	○					
2. 親子の交流に問題点はないかどうかをみる	子どもの視線が親の視線に合うかどうかを見る	視線が合い問題点はない (○) 視線が合わず問題点がある (×)			○	○								○	○	○	
3. 他の子に興味があるかどうかをみる	「何をしているだろう」と、他の子のやっている事をじっとみたり、近づいたりする事があるかどうかをみる	他の子に興味がある (○) 他の子に興味がない (×)			○									○			○
4. 子どもの表情が、いきいきしているかどうかをみる	機嫌の良い時でも悪い時でも、子どもの気持ちが表にいきいきと出ているかどうかをみる	いきいきしている (○) いきいきしていない (×)				○				○	○			○	○	○	

ことが望まれる。スクリーニングにおける評価は、あくまでも事後措置を正しく、適切に行うためのものであるはずである。

2. アンケート、観察項目について

イ. 3・4ヶ月児の場合 (表 2.9.16 参照)

生後3・4ヶ月の段階の乳児は、漸く首もすわり、あやすと笑うようになり、表情も豊かになってくる。

従って、アンケート項目は、首のすわり、視、聴覚の異常、対人関係の異常などを中心に設定されている。観察も、親の子どもへの働きかけとそれに対する子どもの反応をみることを通じ、感覚機能やアタッチメント行動の発達が順調に行われているかを確認するものである。

要するに3・4ヶ月児の場合、視聴覚の如き感覚機能が順調に働き、単純な形での認知行動が認められればよいわけである。しかし、この時期においても、あやすと笑うというような社会的刺激への反応もみられ、対人的なつながりが芽生えてきていることにも注目せねばならない。親からの働きかけに子どもが如何様に反応するかをみることは、特にこの時期では重要である。

ロ. 6・7ヶ月児の場合 (表 3.10.17 参照)

6・7ヶ月児では、心身の発達に伴い、周囲の事物への働きかけも活発化し、玩具などに対する関心も高まってくる。この時期は、感覚運動期そのものであり、全身の感覚を動員した活動がみられる。協応動作も発達し、

表 13. 1歳6カ月児

自然観察項目	観察点	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因								
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因	
1. 1人歩きが出来るかどうかをみる	支えなしで、1人で数歩、歩けるかどうかをみる	1人歩きが出来る (○) 1人歩きが出来ない (×)	○					○	○	○					○	
2. 遊んでいる他の子どものところに、行きたがるかどうかをみる	遊んでいる他の子どもに興味を持ち、その子と遊ぶという気持ちを持っているかどうかをみる	他の子のところに行きたがる (○) 遊んでいる他の子がいても無関心である (×)			○					○			○		○	○
3. 子どもの表情が、いきいきしているかどうかをみる	機嫌の良い時でも悪い時でも、子どもの気持が表にいきいきと出ているかどうかをみる	いきいきしている (○) いきいきしていない (×)				○		○	○			○	○	○		

目と手、耳と首の動きなどの協応もたしかなものになってくる。運動も、寝返りが可能になり、周囲のものにすぐ手を出し、握んだものを口にもっていく動作がさかんにみられるようになる。

従って、アンケート項目も以上述べたような発達の特徴がみられるかをきいたものであり、観察の項目も同じように、身近かなものへの興味の示し方やそのものへの働きかけ方などに関したものである。

この時期、大人しくて全く手のかからないといった状態の子どもがいるが、そうした子どもこそ最も深刻な問題をもった子どものケースであることが多いので、子どもの動きの量や方向などに対する確認が特に重要である。このことが6、7ヶ月児の場合、評価の最重要ポイントといえる。同時に、人見知りなどもこの時期からいよいよよさかんになるが、そのことは認知能力のめざましい発達を示と共に、養育者との対人関係の強化を示すものである。視線が合わない、周囲の人間に関心を示さないなどの自閉的傾向が徐々に顕在化し、親がそのことを問題

視するようになるのもこの時期であり、そうした面についての確認も、アンケートや観察でなされるように考案した。

ハ. 9・10ヶ月児の場合 (表4.11.18.参照)

9・10ヶ月になると、生活のリズムもいよいよ幼児と同じものになってきて、夜間の睡眠時間が長くなる。つかまり立ちもできるようになり、はいはいなどによって身体の移動も可能になるので目が離せなくなる。簡単な模倣活動もみられ、大人との交流はいよいよよさかんである。

従って、9・10ヶ月の段階では、こうした積極的な周囲のかかわりがみられるかについて評価することがなされねばならないわけである。そこでアンケートでは、全身運動ではつかまり立ちとはいはい、微細運動では指の細かな操作についてきき、人のかかわりでは「イナイナイバア」のような対人的な遊びや大人の行動の模倣についてきくことにした。観察でも、そうした身体的な動きをみると同時に、養育者との間に愛情の交流がなさ

表 14. 3 歳児

自然観察項目	観察点	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因							
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因
1. 子どもの表情がいききしているかどうかをみる	機嫌の良い時でも悪い時でも、子どもの気持ちが表にいきいきと出ているかどうかをみる	いきいきしている (○) いきいきしていない (×)				○	○	○			○	○	○		
2. 子どもの動きが多動かどうかをみる	全く静かにしているというのではないが、行動に落ちつきがあるかどうかをみる	行動に落ち着きがある (○) 多動で落ち着きがない (×)				○		○	○		○	○	○		
3. 何か癖がないかどうかをみる	物しゃぶり、吃音、チックなど、気になる癖はないかどうかをみる	気になる癖はない (○) 気になる癖がある (×)				○					○	○	○		
4. 他の子と交友関係が出来るかどうかをみる	他の子と交わりをもって遊ぶかどうかをみる	交っている (×) 交っていない (×)		○	○				○		○		○	○	

れているかを確認することにした。自由観察項目②③がそれである。

ニ. 1歳児の場合 (表 5. 12. 19. 参照)

生後12ヶ月を経過した1歳児は、いよいよ幼児であり、ひとり歩きやことばが使われ出す時期に入ってくる。手指の動きも、スプーンを使ったり、コップを持つようになり、探索的行動はますます活発になってくる。対人関係の面では、ことばの理解に伴って、ことばを媒介としての関係がつかられ、大人を相手にしての遊びもいよいよ強く求めるようになり、分離不安も同時に強いものになってくる。知的活動も、模倣活動をはじめとして、記憶力の強化と共に乳児期の子どもとは全く異った行動が随所にみられるようになる。

このような状態にある1歳児の場合、当然評価も乳児期の子どもとは違い、課題的なものにも反応するように

なるので、観察などでも、そうした簡単な課題を与えることが可能になってくる。そこで、今回のスクリーニング法においても、模倣して積木を叩き合わせるかというような観察項目を加えた。

運動面では、ひとり歩きができる状態にあるか、という点に当然のことながら重点がおかれ、アンケート項目にもひとり立ちや伝い歩きに関する項目を設定した。又、微細運動については、絵本の頁めくりやビンの蓋の開け閉めのような日常生活における行動についての項目がおかれている。

以上のように1歳児では、発達の評価の手がかりとなるものも増え、評価をくわしく正確に行うことがある程度容易になるということがいえよう。

ホ. 1歳6ヶ月児の場合 (表 6. 13. 20. 参照)

1歳6ヶ月児の場合は、3歳児の場合と同じように、

表 15. 5歳児

自然観察項目	観察点	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因							
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因
1. 子どもの表情が、いきいきしているかどうかをみる	機嫌の良い時でも悪い時でも、子どもの気持ちが表にいきいきと出ているかどうかをみる	いきいきしている (○) いきいきしていない (×)				○	○	○			○	○	○		
2. 子どもの動きが、多動かどうかをみる	少しもじっとしておれず絶えず動き廻るような行動の有無をみる	行動に落ち着きがある (○) 多動で落ち着きがない (×)				○		○	○		○	○	○		
3. 何か癖がないかどうかをみる	物しゃぶり、吃音、チックなど、気になる癖はないかどうかをみる	気になる癖はない (○) 気になる癖がある (×)				○					○	○	○		
4. 他の子と交友関係が出来るかどうかをみる	他の子と交渉をもって遊ぶかどうかをみる	交っている (○) 交っていない (×)				○		○			○	○	○	○	

乳幼児健康診査の重点的な時期とされているが、その時期が発達上の問題や、親の養育態度の歪みなどの発見に最も適当な時期であることを考えれば、当然重視されねばならぬわけである。

たしかに、1歳6ヶ月という年齢段階は、ひとり歩きや始語の遅れを発見するには最も適当な時期である。1歳では早過ぎるし、2歳では遅過ぎるわけで、この時期に始歩や始語がみられないということは、その子どもの発達が順調にいけないことの証となるものである。又、子どもが1歳6ヶ月の頃になると、親の養育態度にも一つの傾向というものが見えてくるので、その把握も容易であると同時に、この時期に適当な指導を行えば、子どもの発達への悪影響も最少限に止めることが可能であり、その点からも1歳6ヶ月児の時期での健康診査は極めて効果的といえる。

このように、1歳6ヶ月児の段階では、発達について

は始歩と始語ということに評価をしばって行うことが大切であり、その2つの点についてチェックするだけでも非常に大きな意義があるわけである。また、この時期は言語の理解能力が日一日とつき、簡単な命令や禁止も理解できるようになるので、いよいよ言語によるコミュニケーションが開始されるという点でも画期的な時期といえる。

従って、評価も以上のことを中心に行えばよく、この段階でのアンケート項目や観察項目の多くは、そうした言語発達や運動機能の発達に関したものである。その他では、他の子どもへの関心の増加や、自分でやろうとする姿勢などについておさえておく必要があり、アンケート項目に加えた。

へ. 3歳児の場合(表7.14.21.参照)

運動機能の発達は、3歳児期では一応日常生活に必要なものの殆んどを身につけるようになるし、知的能力

表17 6・7カ月児

場面設定観察項目	手 続 き	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因									
			① 運 動 能 力	② 認 知 ・ 知 的 能 力	③ 対 人 関 係	④ 情 緒 ・ 人 格	⑤ 身 辺 の 自 立	① 身 体 疾 患	② 知 能 遅 滞	③ 脳 の 器 質 的 障 害	④ 感 覚 器 官 の 障 害	⑤ 自 閉 的 傾 向	⑥ 情 緒 障 害	⑦ 養 育 状 態	⑧ 環 境 的 要 因		
ア①②→場1,3 ア②→場2																	
1. 手をさしのべ積み木を取るかどうかをみる	子どもは前向きに抱かれ、検査者が「～ちゃん、積み木よ」と卓上をトントンとたたき注目したら、積み木を「どうぞ」とさしのべる。	手をさしのべて積み木を取る (○) 手はさしのべるが、積み木は握れない (×) 無反応 (×)	○	○						○	○						
2. 背後の音に振り向くかどうかをみる	子どもは前向きに抱かれ、耳元20センチの背後から、乾いた砂の入ったフィルムケースを振って聞かせ、振り向くかどうかをみる。	振り向く (○) 表情が変わる (○) 無反応 (×)		○								○				○	
3. 課題に対する反応があるかどうかをみる	上に挙げた2つの課題に取り組む姿勢があるかどうかをみる。	課題に合った反応をする (○) 無目的な反応をする (×) 無反応 (×)		○	○					○			○			○	

の面では、言語が一応文としての正しい形をとって会話に使われるようになり、それは2歳児までの状態に比べると格段の進歩である。又、友人関係についても、友達遊びが活発に行えるようになるし、そのものへの関心も非常に強まってくる。もちろん、まだ自己中心性の支配する段階であり、そのために周囲との衝突も多く、対人関係は必ずしも円滑にはいかないのがふつうである。従って、3歳児の段階では、発達について多くのものをチェックする必要があるが、スクリーニングではその全てを網羅して調べることは不可能である。今回われわれの考案したスクリーニング法では、指先の細かい操作能力については円の模写と箸の使用、言語については質問の有無と姓名、社会性についてはごっこ遊びと自他の区別などと

生活習慣の自立に関したものを中心にして項目を選んだ。要するに、3歳児期では、言語の本格的使用ということ、基本的な生活習慣の自立ということに評価の重点をおく必要があるわけである。それに友達遊びの本格化と、そのものへの意欲の有無が問題なのである。

ト. 5歳児の場合(表8.15.22.参照)

就学前の5歳児は、幼児といっても2, 3歳の時期の幼児とは大きな違いがあり、身近生活では殆んど大人の手をかりずに自力で食事や排泄、着衣などが可能になっているし、知的能力の面でも、豊かな想像の世界に楽しむことができるし、言語についても、正しい発音と正しい文の構成が可能となり、数も10前後の数を理解し、数えることもできるまでになっている。対人関係において

表19 1 歳 児

場面設定観察項目	手 続 き	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因									
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身体 の自立	① 身体 疾患	② 知能 遅滞	③ 脳の 器質的 障害	④ 感覚 器官の 障害	⑤ 自閉 的傾向	⑥ 情緒 障害	⑦ 養育 状態	⑧ 環境 的要因		
ア①②→場1～4																	
1. 模倣して、両手で積み木をたたきあわせるかどうかをみる	子どもは前向きに抱かれ、両手に1個ずつ積み木をもたせて、検査者が積み木をたたき合わせ、それを模倣して、積み木をたたき合わせるかどうかをみる。	積み木をたたき合わせる (○) 積み木は持つがたたき合わさない(×) 交叉がうまくいかない (×) 積み木を持たない (×)	○	○						○	○		○			○	
2. 模倣して本をめくるかどうかをみる	子どもは前向きに抱かれ、卓上にある本を、検査者が1ページずつめくってみせた後、子どもにその本を手渡し、「本をめくって」と要求し、めくるかどうかをみる。	数ページいっしょでもめくる (○) 本は持っても、めくらない (×)	○	○						○	○		○			○	
3. 模倣して、メチャメチャ書きをするかどうかをみる	子どもは前向きに抱かれ、検査者が紙にメチャメチャ書きするのを見せて、同じようにメチャメチャ書きをするようにすすめ、書くかどうかをみる。	メチャメチャ書きをする (○) 書かない (×)	○	○						○	○		○			○	
4. 課題に対する反応があるかどうかをみる	上に挙げた3つの課題に取り組む姿勢があるかどうかをみる。	課題に合った反応をする (○) 無目的な反応をする (×) 無反応 (×)		○	○					○			○			○	

表20 1歳6カ月児

場面設定観察項目	手 続 き	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因									
			① 運動 能力	② 認知・ 知的 能力	③ 対人 関係	④ 情緒・ 人格	⑤ 身辺 の自立	① 身体 疾患	② 知能 遅滞	③ 脳の 器質的 障害	④ 感覚 器官の 障害	⑤ 自閉 的傾向	⑥ 情緒 障害	⑦ 養育 状態	⑧ 環境 的要因		
ア①→場1 ア②→場2,3																	
1. 積み木を3個重ねられるかどうかをみる	子どもは椅子に座り、検査者が数個の積み木を積むのを見る。その後、検査者が子どもに、「高く積んでごらん」と要求し、積むかどうかをみる。	崩れそうでも、3個以上積む (○) 2個までしか積めない (×) 横につなげる (×) 無反応 (×)	○	○							○	○					
2. 簡単な命令や要求に応じられるかどうかをみる	子どもは椅子に座った状態で、検査者が近くにある本を指して「本を持ってきて」と要求し持ってくるかどうかをみる。	本を持ってくる(○) 理解しているようだが、本を持ってこない (×) 別のものをもってくる (×) 無反応 (×)		○	○						○	○	○			○	
3. 「お目」「お鼻」「お口」など、顔の部位を指でさせるかどうかをみる	子どもは椅子に座った状態で、検査者が子どもに向けて、「お目はどこ?」「お鼻はどこ?」「お口はどこ?」などときき指でさせるかどうかをみる。	3ヶ所の内、2ヶ所以上、指でさせる (○) 1ヶ所しかさせない (×) 全くさせない (×) 無反応 (×)		○							○		○				
4. 課題に対する反応があるかどうかをみる	上に挙げた3つの課題に取り組む姿勢があるかどうかをみる。	課題に合った反応をする (○) 無目的な反応をする (×) 無反応 (×)	○	○							○		○			○	

高橋他：発達スクリーニング検査法の作成

表21 3歳児

場面設定観察項目	手 続 き	評価基準 (○)は望ましい (×)は望ましくない	問題の領域					原因									
			① 運動能力	② 認知・知的能力	③ 対人関係	④ 情緒・人格	⑤ 身辺の自立	① 身体疾患	② 知能遅滞	③ 脳の器質的障害	④ 感覚器官の障害	⑤ 自閉的傾向	⑥ 情緒障害	⑦ 養育状態	⑧ 環境的要因		
ア①→場1,2 ア②→場2,3																	
1. 丸の模写が出来るかどうかをみる	子どもは椅子に座り、検査者が紙に丸を書いてみせ、それを模倣して書く事を要求し、丸が書けるかどうかをみる。	ぐるぐる巻きではなく1巻で、それほどいびつでなく、始めと終りが大体つながっている丸 (○) ぐるぐる巻きなど上の基準を満たさない丸 (×) 無反応 (×)	○	○						○	○					○	
2. 名前が、姓名とも言えるかどうかをみる	子どもの名前は何かをたずねる。	姓名が いえる (○) 名のみ いえる (×) 姓のみ いえる (×) 無反応 (×)		○						○	○						
3. 丸の大小がわかるかどうかをみる	大きな丸、小さな丸が1個ずつ書かれている紙を、まず最初は横並びに置き、子どもにどちらが大きいかわかせる。	2回とも正しく指させる (○) 1回しか正しく指せない (×) 無反応 (×)		○						○							
4. 課題意識があるかどうかをみる	上に挙げた4つの課題に取り組む姿勢があるかどうかをみる。	姿勢がみられる(○) 姿勢がみられない(×) 無反応 (×)		○	○					○			○			○	

も、3歳児のような自己中心的な態度は影をひそめ、自己抑制能力もついてくるし、ルールや約束に従うこともできるようになる。

このような段階にある5歳児では、要するに翌年の就学に耐えるだけの能力が育っているかをみる事が評価の重要課題である。従って、スクリーニングにおいても、そうした基本的な生活習慣が確立しているか、言語発達が発音の面や理解の面などで順調にしているか、集団生活に耐える社会性が備っているか、指先の動きなど微細運動が描画や書字に耐えるだけに育っているかなどについてその発達状況を見る必要があるわけである。われわれの作成したアンケートや観察項目の内容も、そうしたものを中心に設定されたものである。

3. 問題項目について

今回われわれが作成したスクリーニング法の中のアンケート項目の中には、一部、一般的な発達に関する項目とは別の、その年齢段階においてぜひとらえておく必要のある問題（行動）に関する項目が設けられている。そこで次にその問題項目と、その項目を設けた理由について説明を加えておく。

(イ) 3・4ヶ月児

④ちょっとした音などをきいたり、体の位置の変化などで激しく泣きますか。

⑤昼、夜の区別が大体ついてますか。

⑥授乳の時刻は大体決っていますか。

⑧は神経質傾向についてきたもので、このような子どもには環境への不適応をおこし易い子どもが多い。⑨⑩は、徐々に生活のリズムが決り、夜昼の区別がつく時期であるこの時期に、全くそうした傾向がみられない場合、養育状態に問題があることが多いので、親の指導が必要なケースといえる。

(ロ) 6・7ヶ月児

⑨ぐずったり、泣いたりすることが非常に多いです。

⑩ごく小さな音にも目ざめやすく、眠りが浅いですか。

⑪夜昼間の寝る時間は大体一定していますか。

⑫夜泣きが激しいですか。

⑨⑩のすぐ泣く子どもや浅眠の子どもの場合、⑫の場合も同じように子ども自身の気質的な問題であることが多いが、そのために周囲が神経質になり過ぎている場合が多く、この場合も親への指導が必要なケースである。⑪の夜昼の生活のリズムが不安定な子どもについては、3・4ヶ月児の⑨の場合と同じである。

(ハ) 9・10ヶ月児

⑬夜泣きが激しいですか。

⑭寝つきが極端に悪いですか。

⑯夜間を中心とした睡眠のリズムが確立していますか。
この場合も、⑩と⑫については子どもの気質の問題と、親の養育状態の歪みなどが影響しているといえるし、⑯の場合は、この時期では3・4ヶ月児や6・7ヶ月児に比べて、こうした例は少なくなるのがふつうであり、親達の生活状況についても調べる必要がある。

(ニ) 1歳児

⑮夜泣きが激しいですか。

⑯寝つきが極端に悪いですか。

この両方の項目共、同じようなものであり、子どもの神経質な気質と養育状態の歪みに注意が肝要である。戸外の生活を子どもに多くさせるなど、生活全体の改善が望まれるケースである。

(ホ) 1歳6ヶ月児

⑰初めての場所、人、物などに極端な恐れや不安を示しますか。

⑱寝つきが極端に悪いですか。

⑲夜泣きが激しいですか。

⑯の問題は、やはり子ども自身の気質が原因していることもあるが、親の過保護な扱いや生活経験の不足などが原因しているケースも多い。⑲⑳については、1歳児の場合と同じである。

(ヘ) 3歳児

⑳ちょっとしたことを極端にこわがり、おびえることがありますか。

㉑極端に落ち着きがないですか。

㉒の臆病な子どもについては、その殆んどは親の過保護や不安を与えるような拒否的態度によるものであり、養育態度の改善が望まれる。㉑の多動の子どもについては、知能遅滞や自閉症児のようなケースもあるので、症状が激しい場合は精密検査がぜひ必要である。

(ト) 5歳児

㉓集団生活になじんでいますか。

㉔気になる行動や目立った癖などがありますか。

㉑については、もう5歳児という年齢を考えた時、やはり早急な適切な対応が必要である。㉒の気になる行動や癖などについても、それによって本人や親が悩んでいるような時は、やはり専門家による指導が望まれる。

4. 事後措置について

スクリーニングを如何に事後措置に結びつけるかは健康診査の大きな課題である。しかし、事後措置については、健診を実施する側の姿勢もさることながら、受皿となる各種の医療機関や福祉、教育施設などに地域差が大きいことから、いくら立派なモデル案を提供しても高根の花となる可能性もあり、あくまでもその地域地域の実

状にそって適切な措置がこうじられることが望まれるわけである。

われわれのスクリーニング法においては、アンケート項目の問題の原因となるものを8つあげたが、身体疾患や脳の器質的障害、感覚器官の障害などに原因がある場合には、当然のことながら専門医師による診断、治療が必要であり、そうした専門機関を紹介したり、移管することが事後措置として行われるし、情緒障害や知能遅滞などに原因がある場合には、心理判定や心理治療が可能な機関（児童相談所や家庭児童相談室）との協力や紹介、移管が行われねばならない。その他、各種の障害児施設などへの紹介や移管が考えられるし、養育環境の問題にしても、そのものが虐待ケースのような場合には、ケースワーカーのような福祉の専門家の手をかりることも必要になってくるので、福祉事務所や児童相談所との連絡も密にとることが望まれる。

又、症状によっては、保健所や保健センターのような場での通所指導や経過観察も行われるが、そうした対応についての決定は、やはり健診の場での評価を通じてなされるものである。

いずれにしても事後措置が適切な形で行われるためには、健診での評価が適当なものであることが前提であり、その評価の真価が常に問われるわけである。われわれの考案したアンケート項目は、その一つ一つが実は事後指導を行うための布石となることを考えて設けられたものである。

そして、事後措置を行うにあたっては、今更言うまでもないことであるが、日頃から地域の事後措置に活用できる医療、福祉、教育機関についての豊かな、正確な情報や資料を得ておくと同時に、連絡を密にし、その紹介や移管が円滑に行われる体制づくりがぜひ必要である。

5. おわりに

以上がわれわれが今回考案した発達スクリーニングの

概要と実施上の留意点であるが、繰返し述べるように、今回われわれが考案したスクリーニング法においても、その評価は常に慎重でなければならないし、一つの面からだけでなく、その子どもを全体としてとらえることがぜひとも必要なのである。そして、子どものひとりひとりが尊重され、正しく周囲から理解されるためにも、スクリーニングは欠かせぬものであり、常に充実したものが要求されるわけである。

もちろん、このことは前述した如く、決して容易なことではない。そのために厳しいスクリーニング技術の修得のための研修が必要であるし、スクリーニングにあたる人々のチームワークの確立も、そのものを効果的に行うためには欠かせぬ事である。今回われわれの作成したスクリーニング法も、決して満足すべきものとは言えず、今後更に改良を重ねることが必要であり、現場で健康診査に従事する方々からの御助言なり、御提案を大いに期待している。おわりに、今回スクリーニングの作成にあたって、御協力や御助言を戴いた方々に心から御礼を申し上げる次第である。

<参考文献>

- 小児保健指導の指針，村上勝美監修，南山堂，1985。
- 日本版デンバー式発達スクリーニング検査，上田礼子，医歯薬出版，1980。
- L. B. エイムス他著，高橋訳，幼児の行動発達の評価，同文書院，1987。
- H. I. ブロック著，新井訳，発達診断マニュアル，日本小児医事出版，1982。
- 乳幼児の健康診査とスクリーニング，中山健太郎，医学書院，1980。
- 小児のプライマリケア・診断篇，中山健太郎篇，朝倉書店，1984。

Infant & Young Children Development Screening Method

Taneaki TAKAHASHI, Takeko MOCHIZUKI,
Akira TAKANO, Utako NODA,
Hidetoshi HAGIWARA, Tadaaki KATO,
Yukie NODA

The Infant & Young Children Development Screening Method we have devised this time is aimed at conducting more effectively the existing screening of infant development conducted at Infant Health Examination at each area. We purposed that our method would be realizable easily in a short time.

The evaluation on the development is the all-round evaluation made up both by the questioning on mothers (or other fosterers) and the results of the observations made by the persons engaging in the screening. The development of each infant is thereby intended to be apprehended as a whole human-being as much as possible. The passing rate of each questionnaire and observation item was examined on about 1,400 infants born in Tokyo area, and the items which showed the passing rates of more than 90% and of which validity and practicability had been approved by the greater part of the persons engaging in the health examination of infants were chosen as the items appropriate for screening. Further improvement is intended after the practical use of this method.